

第16回世界地震工学会議に参加し研究成果を発表しました（2017/1/9-13）

テーマ：地震、防災、減災、東日本大震災
場所：チリ・サンティアゴ

2017年1月9日～13日にかけて、チリのサンティアゴにて「16WCEE: The 16th World Conference on Earthquake Engineering」が開催されました。本会議は、世界各国の地震工学関連の専門家が集結し、地震工学に関する最新の研究および技術について議論することを目的として、4年に一度開催される国際会議です。今回はチリのサンティアゴで開催され、100を超えるセッションが開かれました。

当研究所の村尾修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）は、スペシャル・セッションのひとつとして「Learning from the Great East Japan Earthquake: Recovery and Future Resilience」を企画し、オーガナイザーを務めました。当研究所からは他に、源栄正人教授（災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野）、丸谷浩明教授（人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野）、姥浦道生准教授（地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野）、ボレー・セバスチャン助教（情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野）が参加しました。ここでは東日本大震災と関連する以下の8件の発表が行われ、熱い議論が交わされました。

- 源栄正人 教授（東北大学災害科学国際研究所）
「Lessons from the 2011 Great East Japan Earthquake Focused on Building Damage」
- ノートン・テリー 准教授（ネブラスカ大学）
「Debris Management and Restoration of the Miyagi Prefecture following the 2011 Tohoku Earthquake Tsunami」
- 姥浦道生 准教授（東北大学大学院工学研究科）
「Transition of Urban Form after the Great East Japan Earthquake」
- 村尾修 教授（東北大学災害科学国際研究所）
「Recovery Curves for Permanent Houses after the 2011 Great East Japan Earthquake」
- 丸谷浩明 教授（東北大学災害科学国際研究所）
「Improvement and Dissemination of BCM based on the Lessons of the Great East Japan Earthquake」
- ボレー・セバスチャン 助教（柴山明寛 准教授の代理発表）（東北大学災害科学国際研究所）
「The Roles of Archiving in Earthquake Studies :The Case of the Great East Japan Earthquake」
- ボレー・セバスチャン 助教（東北大学災害科学国際研究所）
「Learning from Earthquake Memorials:The Case of the Great East Japan Disaster」
- 目黒公郎 教授（東京大学生産技術研究所）
「Misunderstood lessons from the 2011 Great East-Japan earthquake Tsunami disaster」

また日本地震工学会はこれまで、次回の「17WCEE（2020年）」の日本開催を目指して誘致活動を行ってきました。そして、本会議開催中に40カ国の代表による投票が行われ、次回開催都市に仙台が選ばれました。日本でのWCEE開催は次回で3回目となり、2015年国連防災世界会議のような盛大なものになることが予想されます。東日本大震災で培った日本の知見や、復興の進む被災地を世界に発信する好機であるとともに、これまでに当研究所で従事してきた関連研究の発表が期待されます。

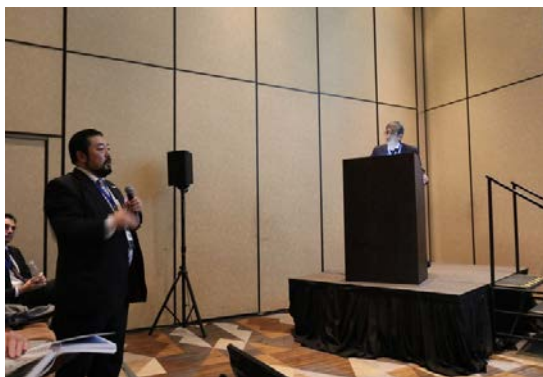
文責：村尾修（地域・都市再生研究部門）
（次頁につづく）



16WCEE 開会式



セッション風景



セッションでの質疑応答



源栄教授のプレゼンテーション



ポレー助教のプレゼンテーション



セッション参加者及び講演者による集合写真



Gala Dinner にて次回の仙台開催が告げられた



日本地震工学会及び IRIDeS メンバーで記念撮影